

振り返って  
そして前を見て

24

## 忘れずに前に進む

沼口千佳 (歯科衛生士)



歯科衛生士になって17年。“私は今日まで何を大切に生きて過ごしてきたのだろう”とこれまでを振り返ってみました。さまざまな出来事が起こる診療室の中で、どんなことに感動し、心を大きく揺さぶられ、考えてきたのか……。たくさん笑ったけれど、涙した日もあった。日々の出来事のどんな場面を私は大切に生きてきたのか、そんな話をしてみたいと思います。

学生のころ、実習で保育園に「集団歯磨き指導」に行きました。そのときの私は、話を聞いてくれる園児のことを思う余裕などなく、自分のことで頭がいっぱいでした。いざ本番になると、緊張のあまり、園児たちの顔を見ていたつもりが、後ろの壁を見て話していました。結局、何をどう話したのかも、園児たちの顔もほとんど記憶にありません。その経験は、「私は歯磨き指導が苦手なんだ」という気持ちとともに、苦い思い出となって私の中に残ってしまいました。

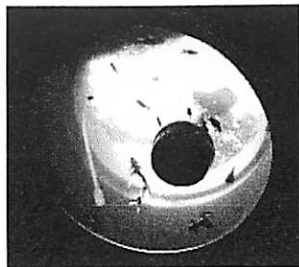
そんな私が就職したのは、当時では珍しく予防

歯科を専門としてさまざまな地域活動をしている歯科医院でした。毎日の診療でのTBIは当たり前。ほかにも多くの幼稚園や保育園での検診や歯磨き指導があるのです。一応、“予防にかかわりたい”という気持ちをもって就職はしましたが、人前で話をしたり、意識してコミュニケーションをとったりすることが本当に苦手で、どうしてよいのかわからないことばかりでした。しかし、仕事を好き嫌いで選べるわけもなく、“ど新人”だった私は、日々何かと闘っていたように思います。

就職して間もないそんなある日、5歳の男の子が初診で当院にやってきました。残念なことに、その子の臼歯部は齲蝕によってほぼ崩壊していました。何から始めればよいのかわからず戸惑う私に対して、その子は、はじめからとても人なつこく私を受け入れてくれました。いつも「保育園で何をして遊んだ」、「おやつで何を食べた」などたくさん話しかけてくれました。

その子が私に話しかけ続けてくれたおかげで、徐々に私の気持ちが軽くなっていくのがわかりました。それと同時に「この子のために何かしたい、何ができるだろう」と考えるようになりました。院長やスタッフ、その子のお母さんと何度も話し合いながら、長い時間をかけて治療をしました。また、いつも治療のなかでさまざまな話をしながら、その子との関係を築き、予防の大切さも伝えていきました。いま思えば、私は5歳の男の子に、





診療室の天井の水槽で泳ぐ金魚たちは、当医院の“癒し系”です。じっくり観察していると、1匹1匹の特徴が見えてきます。毎日多くの方が愛情を込めて、「みんな元気かな？」と様子を見にきてくれます

ほかの来院者の方々とのコミュニケーションのコツも教えてもらっていたのです。

自分の変化を感じて、来院者の変化にも気づくようになったころ、突然その子が私に言いました。

「保育園に歯磨きを教えに来てくれたこと覚えてるよ」と。

最初は何のことかわからなかったのですが、話を聞いていくうちに記憶がよみがえってきました。しかし悲しいかな、私は保育園に行ったことは覚えていても、その子がその場所にいたことを覚えていません。というより、知りませんでした。そんな私に、その子は「それでもいい」と言ってくれました。「自分は覚えているから」と。出会って4年が過ぎたころにそんなことを言われて、嬉しいやら、自分が情けないやらで、涙がこぼれました。

“私の「はじめて」を覚えてくれている人がいる”——それがこんなにも嬉しいものかと、いま思い出しても涙がでできます。その日から私は、診療室という限られたスペースで出会う方たちのいろんな「はじめて」や、一つひとつの場面を忘れずにいたい、と思うようになりました。私自身やスタッフがはじめて見たこと、聞いたこと、知ったこと、経験したことはもちろんですが、何より来院される方々の「はじめて」やさまざまな場面を、私の記憶のなかにしっかりと残したいのです。

はじめて来院した日に大泣きする子どもの顔、昨日まで泣いていた子どもたちが何かをきっかけにある日突然笑顔で頑張れた日、将来の夢を教え

てくれた日のこと……。

成人の方でも、心が通い合う瞬間を感じ、その瞬間を境に会話の内容が変わっていくことが少なくありません。楽しい話ばかりをしてくださっていた方から、悲しい話を聞くこともあります。いままで想像もしていなかった、その方の違った一面を知る瞬間です。そのような瞬間を記録として残すのと同時に、私の記憶にもしっかりと残したい、いっしょに喜び、悲しみながら記憶していきたいのです。

人を想う気持ちに救われながら、今日までこの仕事を続けてくることができました。ときに、私の気持ちにも共感して寄り添ってくれる人がいる、だから自分の成長を感じ、人の成長を見守ることができる、この診療室から今日も力強く前へ進みたい。「忘れずに前に進む」——これが私の歯科衛生士としての願いです。

当院の診療室の天井にある水槽には金魚が見えます。今日も2歳の女の子が泣きながら定期健診にやってきました。「帰る！」「ママ抱っこ！」と叫んでいます。なんとかユニットに横になった瞬間、真っ赤で大きな金魚を見つけ一瞬泣きやみました。そして小さな声で「ポニョだ……」とつぶやきました。その子には、金魚がポニョに見えたのでしょうか。「ポニョが見てるから頑張る」と、すこし涙が減ってきました。その日は、泣きながら歯磨きをしましたが、終わってからはいっしょに「ポニョ」を見て笑いました。

きっと私は、この出来事も忘れない。今後も、そんな見逃してしまいそうな、忘れてしまいそうな一瞬を「忘れずに前に進みたい」、そう思います。